

講義名	哲学			
担当教員	越後 圭一			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

哲学とは、世界や人間の存在の有り様や存在のものについて「考える」ことで迫っていく学問です。常識や先人の教えを参考にしつつも、それらにとらわれず、じぶんの眼で「とは何か？」と考えていくことが良い生き方につながると哲学は考えます。とはいえ、やはり先人の教えを知ることが大事です。この講義では、おもに近世哲学の代表的な思想を紹介することで、じぶんの眼で考えるためのヒントにしてもらいたいと考えています。

授業はすべてオンライン・オンデマンド形式でおこないます。授業動画のURLを各授業日前までにポータルと一斉配信メールにより告知するので、チェックし視聴してください。

到達目標

- ・知への興味や関心を引き出し、物事を深く考えるための知的基盤形成を促す教養をつける。
- ・物事の本質を原理的に考え抜こうとする態度を身につける。

提出課題

- ・学期の中間にそれまでの授業内容に関する小レポートを提出してもらいます。(400字以上)
- ・また、学期末の試験はありますが、最後に講義全体に関するレポートを提出してもらいます。(1000字以上)

レポート提出時期の詳細については動画内で告知します。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

RYUKA Portal より、各回の質問を受け付けます。

評価の基準

中間レポート(50%)、期末レポート(50%)

いずれか一方のみの提出では単位取得点を満たすことはできません。いずれもウェブ上の文章をそのまま写した内容のレポートは失格扱いにします。

履修にあたっての注意・助言他

哲学というと難しいイメージがあるかもしれませんが、この授業では近世哲学全体の特徴をつかみやすいように各思想家について深く踏み込まずにかんたんに解説するつもりですので、気軽に受講していただければと思います。

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

参考文献は授業資料内で紹介する予定です。

授業計画

第1回： ガイダンス
第2回： 近世哲学の特徴 中世から近世へ
第3回： 近世哲学の特徴 ルネサンス、宗教改革
第4回： 近世哲学の特徴 科学革命
第5回： 合理論 デカルトの方法論
第6回： 合理論 デカルトの心身二元論
第7回： 合理論 スピノザの方法論
第8回： 合理論 スピノザの汎神論
第9回： 合理論 ライプニッツの方法論
第10回： 合理論 ライプニッツ圏体論
第11回： 経験論 ロック
第12回： 経験論 ハークリ
第13回： 経験論 ヒューム
第14回： カントの批判哲学 純粋理性批判
第15回： カントの批判哲学 実践理性批判

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実験、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業に臨むにあたり、それまで授業で配られた資料を復習し、思想の大まかな流れやキーワードを把握しておいてください。授業の構成上、復習が次の回への予習にもなるので、復習に重点を置いて自主学習してみてください。(予習・復習で計2時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は、近世近代ヨーロッパの様々な思想を学ぶ趣旨のもですが、そのためには同じ問題について異なる考え方を比較し、分析・把握する必要があります。また、それぞれの思考スタイルがもたらす困難な課題を見抜き、解決すべき問題点がどういったものであったのかを理解していくことが必要となります。これは、ディプロマ・ポリシーにおける「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の育成に貢献するものと考えます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

とくにありません。

実務経験の有無及び活用

備考

授業の進み具合等に応じて内容を変更する場合があります。